

合志市文化財調査報告第4集

# 高木原遺跡

高木線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

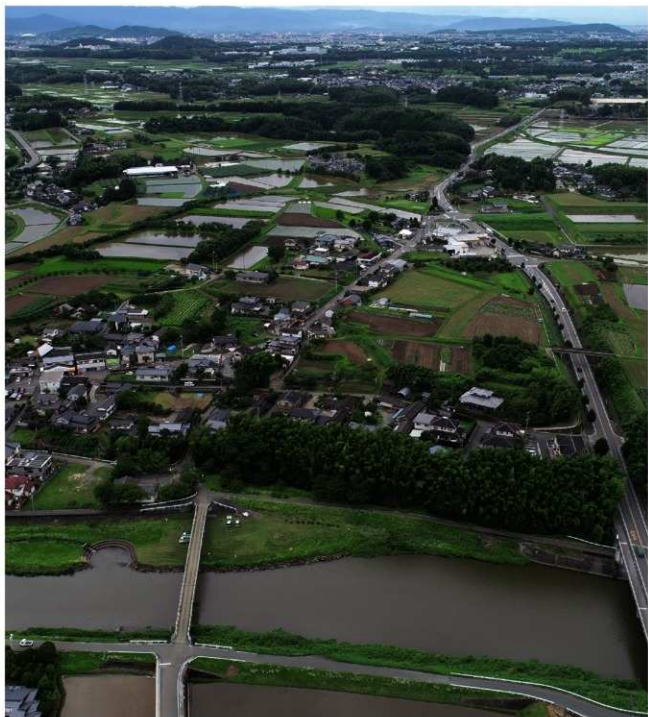
2019年

合志市教育委員会









高木原遺跡全景（南方向をのぞむ）



合志市文化財調査報告第4集

# 高木原遺跡

高木線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査



高木原遺跡調査記念集合写真（「九州縄文土器の研究」より引用）

2019年

合志市教育委員会





# 序 文

合志市教育委員会では、高木線改良工事事業に伴い本市大字合生に所在する高木原遺跡の発掘調査を実施しました。

高木原遺跡は、かつて坂本経堯氏により大正15年以来、縄文時代から古代にいたる多くの遺物が採取されています。また、昭和5年には、肥後考古学会により堅穴住居跡が県内で初めて発掘調査が行われました。さらに、この遺跡では坂本氏により奈良時代の銅製帯金具や蔵骨器が出土しており、合志郡衙（当時の役所）推定地にもなっている重要な遺跡であります。

今回の発掘調査により、新たに弥生時代から古代を中心とする遺構や遺物が出土しました。これらをまとめて報告書の刊行により、広く市民の皆様方の埋蔵文化財に対する関心と理解を深めるとともに、学術研究および本市の歴史を解明することに寄与できれば幸いです。

なお、本調査を実施するにあたり、ご理解・ご協力をいただきました市民の皆様、地元関係者の皆様ならびに関係各位に、深く感謝申し上げます。

平成31年3月31日

合志市教育長 惠濃 裕司

## 例言

1. 本書は、合志市教育委員会が高木線改良工事に伴い、発掘調査を実施した。熊本県合志市合生に所在する高木原遺跡についての埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、平成30年5月14日から7月13日までの期間、合志市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、主に合志市教育委員会が行い、調査補助業務を株式会社有明測量開発社に委託した。
4. 調査区の4級基準点測量、メッシュ杭の設置、地形測量、遺構実測は、株式会社有明測量開発社に委託した。
5. 航空写真撮影を松本浩介氏に委託した。
6. 整理作業は、高木区公民館を借用し、行った。
7. 遺物の実測、製図は株式会社有明測量開発社に委託し、平成30年9月11日から10月31日まで行った。
8. 本書の執筆は、米村大、奈須和貴（合志市教育委員会）が分担して行い、米村が編集を行った。

## 凡例

1. 現地での実測図は、以下の縮尺で行い本書収録の際には以下の縮尺で作成した。

遺構配置図	現地 20 分の 1	本書 100・150 分の 1	
遺構実測図	土坑	現地 20 分の 1	本書 40 分の 1
	住居跡	現地 20 分の 1	本書 40 分の 1
	溝跡	現地 20 分の 1	本書 40 分の 1
	土層断面図	現地 20 分の 1	本書 80 分の 1
2. 本書における遺物の縮尺は土器 3 分の 1、石器 3 分の 2、鉄製品が 3 分の 1 で掲載する。

## 本文目次

序文

例言 凡例

### 第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査の契機	1
第2節 調査の経過	1
第3節 調査の組織	2

### 第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と環境	3
--------------	---

### 第Ⅲ章 調査とその成果

第1節 遺跡の概要	9
第2節 遺跡の層位	9
第3節 遺構	13

### 第Ⅳ章 まとめ

41

報告書抄録

## 挿図目次

第 1 図	合志市遺跡地図	6
第 2 図	合志郡衙推定地	10
第 3 図	遺跡周辺地形図 (1/4000)	10
第 4 図	調査区全体図 (1/800)	11
第 5 図	グリッド設定図 (S=1/800)	12
第 6 図	第 1 調査区平面図 (S=1/150)	14
第 7 図	第 1 調査区土層断面図	15
第 8 図	S11 遺構実測図	16
第 9 図	SD1 遺構実測図	16
第 10 図	S12 遺構実測図	17
第 11 図	S15、SK1・2 遺構実測図	17
第 12 図	S13・4、SD2、SK3 遺構実測図	18
第 13 図	第 2 調査区平面図 (S=1/150)	20
第 14 図	第 2 調査区北西壁面土層断面図	21
第 15 図	第 2 調査区南東壁面土層断面図	21
第 16 図	SK8～11 遺構実測図	22
第 17 図	SK5・6、SD4 遺構実測図	23
第 18 図	SK4 遺構実測図	23
第 19 図	SD3 遺構実測図	24
第 20 図	第 3 調査区平面図 (S=1/100)	25
第 21 図	第 3 調査区土層断面図	26
第 22 図	S16～10 遺構実測図	28
第 23 図	SD5～8 遺構実測図	29
第 24 図	SD6～8 遺構実測図	30
第 25 図	遺物実測図 (1)	31
第 26 図	遺物実測図 (2)	32
第 27 図	遺物実測図 (3)	33
第 28 図	遺物実測図 (4)	34
第 29 図	遺物実測図 (5)	35
第 30 図	遺物実測図 (6)	36
第 31 図	遺物実測図 (7)	37

## 表目次

第 1 表	合志市遺跡一覽表	7
第 2 表	遺物觀察表 (土器・土製品)	38
第 3 表	遺物觀察表 (石器)	40
第 4 表	遺物觀察表 (鉄器)	40

## 図版目次

図版 1	遠景写真（西方向）	45
	遠景写真（東方向）	
図版 2	遠景写真（北方向）	46
	第1調査区完掘状況	
図版 3	第2調査区完掘状況	47
	第3調査区完掘状況	
図版 4	第1調査区完掘状況（西より）	48
	第1調査区完掘状況（東より）	
図版 5	SI1 土層堆積状況（北より）	49
	SI3 完掘状況（南より）	
図版 6	SI5 遺物出土状況（東より）	50
	SD2 土層堆積状況（北より）	
図版 7	風倒木痕土層堆積状況（北より）	51
	第2調査区北側完掘状況（南より）	
図版 8	SK10・11、SP24 土層堆積状況（東より）	52
	SK10 遺物出土状況（東より）	
図版 9	SD4 土層堆積状況（東より）	53
	SK4 完掘状況（西より）	
図版 10	SD3 完掘状況（東より）	54
	SD3 土層堆積状況（東より）	
図版 11	SP8 土層堆積状況（西より）	55
	第2調査区土層堆積状況（東より）	
図版 12	第3調査区完掘状況（西より）	56
	SI6・7 完掘状況（南より）	
図版 13	SI7 遺物出土状況（北より）	57
	SI6・7 土層堆積状況（北西より）	
図版 14	SD8、SI6・9、SX1 土層堆積状況（北より）	58
	SI10 土層堆積状況（北より）	
図版 15	SD5～8 完掘状況（北より）	59
	SD5～8 南壁面土層堆積状況（北より）	
図版 16	SI8・11 土層堆積状況（北より）	60
	作業風景	
図版 17	出土遺物 (1)	61
図版 18	出土遺物 (2)	62

# 第 I 章 調査の概要

## 第 1 節 調査の契機

平成 29 年 4 月 11 日付けで合志市事業部建設課工務班より高木線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出が市教育委員会に提出された。予備調査を平成 29 年 6 月 12～16 日にかけて実施した。

確認調査の結果、弥生時代・古代の遺構が検出されたことから、文化財保護法第 94 条第 1 項の規定により平成 29 年 6 月 9 日付けで合生第 324 号にて熊本県教育長に通知がなされ、工事着手前に発掘調査の実施が必要である旨、平成 29 年 6 月 20 日付け教文第 671 号にて通知を受けた。

平成 30 年 5 月 7 日付け合生第 150 号で熊本県教育長あてに文化財保護法第 99 条第 1 項に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し、平成 30 年 5 月 14 日から 7 月 13 日までの間、発掘調査を実施した。

その発掘調査面積は 160 ㎡である。整理作業は、平成 30 年 7 月 17 日から平成 31 年 2 月 28 日まで実施した。

## 第 2 節 調査の経過

- 5 月 14 日 表土掘削（第 3 調査区）。調査区域の安全対策を実施。
- 5 月 15～17 日 包含層掘削（全調査区）。遺構検出（第 3 調査区）。
- 5 月 16 日 調査区の安全対策の実施。
- 5 月 17 日 SD3 掘削（第 2 調査区）SD5 完掘・土層断面撮影（第 3 調査区）、調査区域の安全対策の実施。
- 5 月 21 日 SD5 完掘状況撮影、SD6 掘削（第 3 調査区）。
- 5 月 22 日 硬化面検出（第 1 調査区）。SD3 掘削（第 2 調査区）。SD6 完掘（第 3 調査区）、基準杭の設置。
- 5 月 24 日 SD3 掘り下げ（第 2 調査区）。SI6・7 硬化面の検出、SI7 遺物出土状況撮影（第 3 調査区）。
- 5 月 25 日 SD3 完掘状況及び土層断面の撮影（第 2 調査区）。SI6・7 完掘状況撮影。SD8・9 掘削（第 3 調査区）。
- 5 月 29 日 遺構検出（第 2 調査区）。略図作製。遺構実測（第 2・3 調査区）。
- 5 月 30 日 調査区土層断面撮影（第 2 調査区）。遺構実測（第 2・3 調査区）。
- 6 月 1 日 SP12・22、SK7 完掘状況撮影（第 2 調査区）。
- 6 月 4 日 遺構検出（第 1 調査区）。SP18～21、SK6 土層断面撮影、SD4 完掘状況撮影（第 2 調査区）。
- 6 月 7～13 日 遺構検出、硬化面検出（第 1 調査区）。
- 6 月 13 日 SK6・8・11 土層断面撮影。SK5～11 完掘状況撮影。調査区土層断面撮影（第 2 調査区）。遺構実測（第 2・3 調査区）。
- 6 月 14 日 遺構検出、SI1・3・4、SD1・2 掘削（第 1 調査区）。遺構実測（第 1・3 調査区）。
- 6 月 15 日 SI1～3・5、SD1、SK3 完掘状況撮影、調査区土層断面撮影（第 1 調査区）。遺構検出（第 2 調査区）。遺構実測（第 2 調査区）。完掘状況及び調査区土層断面撮影（第 3 調査区）。
- 6 月 18 日 遺構実測（第 1 調査区）。
- 6 月 25 日 調査区土層断面撮影（第 1 調査区）。調査区土層断面及び、SI3（第 1 調査区）、SK5・6 完掘状況撮影（第 2 調査区）。
- 6 月 27 日 空撮（全調査区）。
- 7 月 2 日 空撮（遺跡周辺）。
- 7 月 9 日 埋め戻し作業の開始。
- 7 月 10 日 第 3 調査区、埋め戻し完了。
- 7 月 11 日 第 2 調査区、埋め戻し完了。
- 7 月 12 日 第 1 調査区、埋め戻し完了。
- 7 月 13 日 器材撤収。現場における調査終了。

### 第3節 調査の組織

#### 発掘調査（平成30年度）

調査主体 合志市教育委員会

調査責任者 惠濃 裕司（教育長）

栗木 清智（生涯学習課長）

太田 徹（同課班長）

樋田 恵（同課主幹）

森田 由紀恵（同課主幹）

松本 聡一郎（同課主事）

調査担当者 本調査 米村 大（合志市教育委員会生涯学習課主事）

奈須 和貴（同課文化財調査員）

調査指導・助言 廣田 静学（熊本県教育庁文化課 文化財調査班主幹）

調査協力者 地元の方々

発掘作業員 甲斐時男、辰島正徳、塚本勇、三好茂昭、森本勝行

（五十音順）

#### 整理報告書作成（平成30年度）

調査主体 合志市教育委員会

調査責任者 惠濃 裕司（教育長）

栗木 清智（生涯学習課長）

太田 徹（同課班長）

調査担当者 米村 大（同課主事）、奈須 和貴（同課文化財調査員）



## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡の位置と環境

合志台地は透水性が強く、雨水は地下に浸透することから、起伏の少ない傾斜の緩やかな地形である。菊池川水系である合志川は阿蘇外輪山の鞍岳を源とし、その合志川に流れ込む支流は台地を侵食する谷地形を形成している。本遺跡はこの台地の北西に位置する。

台地上で営まれる農業は現在、水利が発達し水田化されるが、近年まで畑作地帯であった。水田化できるわずかな谷地形に限られ、火山灰より形成された肥沃ではない土地であった。そのため畑作主体の生業が営まれていたと考えられる。

高木原遺跡は南北を塩浸川と合志川に挟まれた台地に立地する。また、東側には、上ノ庄川が流れる。塩浸川は竹迫に源流があり、この流域には、縄文時代以降の遺跡が集中して分布する。本遺跡は、かつて西部実業学校の実習地があり、坂本経彦氏によって奈良時代の銅製帯金具（丸鞘）や蔵骨器を採取されている。昭和5年、肥後考古学会による発掘調査が行われ、県内初となる弥生時代の堅穴住居跡が発見された。このように古くから本遺跡は縄文時代～古代までの遺構、遺物が確認されている。延喜式駅路成立以前の鞠智城に通じる「車路」が現在の国道387号線（菊池往還）に想定されており、本遺跡の東側にあたる台地縁辺に沿ってかつての「菊池電鉄」の軌道付近がその車路推定地にあたる<sup>110</sup>。本遺跡は、古代の合志郡衙推定地として以前より指摘されている（図2）。

#### 縄文時代

本市では旧石器時代の遺跡は発見されていない。御手洗遺跡は、縄文時代後期「御手洗式土器」の標式遺跡である。二子山石器製作遺跡（国指定史跡）では、玄武岩質安山岩を母岩として打製石器を製作した痕跡が良好に遺存する。これまで金峰山系の安山岩と考えられてきたが西原村の権現原に分布する高マグネシア安山岩（IMA）と極めて類似した特徴をもつことが指摘されている。<sup>111</sup> 須屋城跡発掘調査では、曾畑式土器に先行する野口式と考えられる土器群が出土している。

#### 弥生時代

平成元年から3年にかけて生坪地区農業基盤整備事業に伴う発掘調査では、弥生時代後期の堅穴建物で複数の遺跡において確認された。各遺跡の軒数は、石立遺跡4軒、八反田遺跡15軒、八反畑遺跡5軒、八反原遺跡53軒である。八反原遺跡の堅穴建物からは、内行花文鏡が出土している。須屋付近でも弥生時代の集落が存在しており、宿の山遺跡では堅穴建物が検出され、また宿の山遺跡、梨ノ木遺跡からは中期の甕棺が出土している。

塩浸川下流域の高木原台地には、3重の円弧を描く溝が検出された石立遺跡や、延長約70mの溝が検出された八反畑遺跡などがあり、環濠集落の可能性が考えられている。

#### 古墳時代

合志川流域には多くの古墳が存在している。八反田遺跡、八反畑遺跡、石立遺跡、迫原遺跡、八反原遺跡が本市で調査され、昭和63年に上生上ノ原遺跡が県文化課によって発掘調査された。

八反原遺跡は、方形周溝墓10基、円墳19基が検出されている。4世紀後半～末頃の方形周溝墓から5世紀前半以降の円墳へ推移する。八反原遺跡2・3号墳や上生上ノ原遺跡では、九州でも初期の馬具（轡）が出土した。<sup>112</sup> また、上生上ノ原遺跡では三角板鋸留短甲が出土している。八反原遺跡の6基の周溝からは、殉葬馬の可能性が高い馬骨が馬具とともに出土した。以上のように、黒松古墳群や生坪古墳のある合志川中流域左岸の台地周辺には、朝鮮半島の渡来文化が認められ、中央政権との強い結び付きを示している。<sup>113</sup> 神田遺跡では上生上ノ原遺跡と同様、古墳時代前期の堅穴建物が3軒検出された。

山本郡の分立した合志郡の範囲（合志・西合志・泗水・旭志・菊陽・大津町）には前方後円墳が分布しておらず、

この地域の特徴が挙げられる。

## 古代

貞観元（859）年合志郡から山本郡が分立し肥後国は14郡になる（『日本三代実録』巻2）。『和名類聚抄』によれば合志郡は合志郡、小川郡、山道郡、鳥嶋郡、口益郡、鳥取郡の6郡からなり比定地は諸説あり定まっていない。郡衙の推定地は小合志、高木原・千束遺跡、上鶴頭遺跡、住吉神社が挙げられるが不明な点が多い。八反田遺跡、八反畑遺跡、八反原遺跡、迫原遺跡の発掘調査では、合計163軒の竪穴建物が確認されている。出土遺物は、墨書土器や刻書土器をはじめその他の遺物の年代から7世紀後半から9世紀前半に及ぶ。

千束遺跡では発掘調査の結果、方形に巡る溝、掘立柱建物、蔵骨器、円面硯、輸入陶磁器が出土している。

熊本県教育委員会による出口遺跡、揚土遺跡、峠遺跡の発掘調査において墨書土器が多数出土している。八反田A・B遺跡、八反畑遺跡、迫原遺跡、八反原遺跡においても墨書土器が認められ、7世紀後半～9世紀後半の遺物が出土しており、8世紀後半～9世紀前半の遺物が主体である。<sup>256</sup>

## 中世

古代の律令体制は10世紀初頃には崩壊し、国司が徴税請負人となり地方政治を一任された。国司は郡司や有力農民に租税を請け負わせる方式を採った結果、次第に成長した開発領主は国司と対立を深め中央の貴族や社寺に土地を寄進することで領地の支配権を確立していく。この地域に関して「天満宮託宣記」に正暦3（992）年「合志荘」が大宰府安楽寺領となるとある。また、「東大寺諸荘園文書目録」に久安4（1142）年、観世音寺に關係する荘園である「竹迫別符」をみることができる。

竹迫氏は12世紀末に合志郡地頭職として中原親能の四男中原師員が下向すると「肥後国誌」にある。また、竹迫氏は豊後の大友、肥後の鹿子木、三池氏と同族関係として家系図にある。さらに「妙正寺文書」では、貞和年間（14世紀半ば）に鹿子木貞基から種継に代わり、竹迫を名乗るともあり、定説をみない。

合志氏は菊池系合志、中原系合志、佐々木系合志の3系統に別れるようであるが系譜を追える史料は確認できない。

合志郡半郡の地頭職となった佐々木系合志は南北朝時代に北朝方として菊池氏と対峙し、武勇の優れた合志幸隆は大友氏とともに菊池城を攻め一時、陥落させる。天正13（1585）年合志氏は島津氏に降伏し、高重は薩摩羽月で殺害され、親為は幽閉後婦路の途中八代郡大野で死去したとされる。天正15（1587）年豊臣秀吉の九州平定が行われる。

須屋氏については、南北朝期の興国3（1342）年、菊池氏の武士起請文に須屋刑部という名がみられ、菊池氏の支配下にあったことがわかる。16世紀に合志氏が竹迫城跡に拠点を移し、家臣の財産を整理したと考えられる厳照寺文書「社寺方并侍中坪付写」には、須屋新九郎という人物がみられることから合志氏の家臣であったことが窺える。

平成17年合志小学校新築事業に伴う陣ノ内遺跡発掘調査では、14世紀～16世紀の複数の堀が検出され、館跡の区画が存在したことが判明した。報告書では、文献調査なども合わせ竹迫氏の館跡から合志氏の菩提寺である清寿院跡に変る遺跡との位置付けを行っている。また、文献調査において竹迫城絵図の描かれた背景なども判明した。中世において稲作に適さない台地の生業に関して、大山氏は、大宰府天満宮の「御燈油料所」を旧合志郡内の「富納・片俣」にあったことを確認し、荏胡麻の栽培を背景とした油の生産が合志氏の経済力を支える一部であったことを指摘している。<sup>256</sup>

須屋城跡では、発掘調査の結果、現存していたL字状の土塁の外側に幅約3m、深さ約2mの堀が南北方向に56m、また、東西に並行する長さ90mの2条の堀が確認された。これらの堀は、城域をT字状に区画する。土塁の出土遺物からは、14世紀～15世紀頃に築造された可能性が高い。<sup>257</sup>

- 註1) 鶴嶋俊彦 1983「肥後国北部古代官道」『古代交通研究』第7号
- 註2) 新村 太郎「熊本県合志市二子山に産する高マグネシア安山岩の化学組織およびSr 同位体比」
- 註3) 桃崎 祐輔 2007「馬具からみた中期古墳の編年」第10回九州前方後円墳研究会『九州島における中期古墳の再検討』
- 註4) 杉井 健 2010「肥後地域における首長墓系譜変動の画期と古墳時代」第13回九州前方後円墳研究会『九州における首長墓系譜の再検討』
- 註5) 浦田 信智 1995「第7章 山本郡の独立」『西合志町史』
- 註6) 大山智美 2008「戦国期国衆の存在形態—肥後国合志氏を素材として—」熊本史学第89・90・91合併号
- 註7) 浦田 信智 2013「須屋城跡」合志市文化財調査報告書 第2集



第1図 合志市遺跡地図





## 第Ⅲ章 調査とその成果

### 第1節 遺跡の概要

今回の発掘調査は、高木線改良工事に伴う拡張範囲の約160㎡を行った。事前の確認調査では、弥生時代や古代の竪穴建物跡などの遺構が確認され、合志郡衙推定地（第2図 合志郡衙推定地）でもあったためそのことを踏まえ、本調査に入った。

調査地は、高木原台地の北東側へ張り出した丘陵部に位置し、東側に上庄川及び古代の推定車路、西側に下名の「サコ」付近に谷部が一部、存在する。南側に塩浸川、北側に合志川へ下る段丘面がある。調査地点から南側付近にかけて最も標高が高く、その範囲は、南北240m×東西180mを測る（第3図 遺跡周辺地形図）。

今回、調査を行った箇所は3箇所であり、西側より第1調査区～第3調査区とした。確認された遺構は、溝状遺構9条、土坑11基、竪穴建物跡11軒、不明遺構1基、柱穴が多数確認された。各調査区の土層断面において確認できた検出面の標高は、第1調査区で約65.4～65.5m、第2調査区南端の溝状遺構（古代）が約64.4m、弥生時代の遺構が南側約63.8m～北側約63.0mであった。第3調査区における検出面の標高は、竪穴建物跡（古代）が約61.0m、溝状遺構（古代）が約60.6m、弥生時代の遺構が約60.2mであった。以上から、第1調査区から第3調査区に下がる地形であることが分かる。

各調査区の遺構面の面数は、第1調査区で古代と弥生時代が同一面の1面、第2調査区で古代1面、弥生時代2面の計3面、第3調査区で古代2面、弥生時代1面の計3面であった。

本調査では、調査区が狭いことから遺構全体を対象とすることは、できなかった。遺構は、調査区外に延びるため平面形は、不明なものが多い。確認された内容は、以下のとおりである。

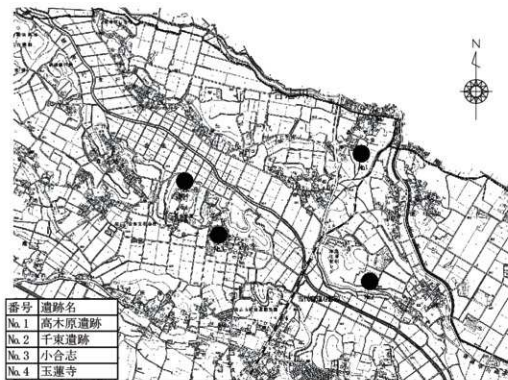
溝状遺構は、弥生時代の1条以外は古代の時期であり、古代の溝状遺構は概ね北東～南西の方向であった。また、竪穴建物跡は、弥生時代7軒、古代4軒が認められた。第3調査区では、弥生と古代の竪穴建物跡の検出面が層位的に捉えられた。竪穴建物跡は、第1調査区と第3調査区で確認でき、第1・3調査区の間位置する第2調査区では、認められなかった。

出土遺物は、コンテナ6箱分の量であった。その内容は、弥生土器や古代の須恵器、土師器、鉄製品の鉄斧、手鎌、鏃、石製品の石包丁などが出土した。縄文時代後期の土器や中世の青磁片は一部の少数であり、弥生時代後期の土器と古代の土器が主であった。

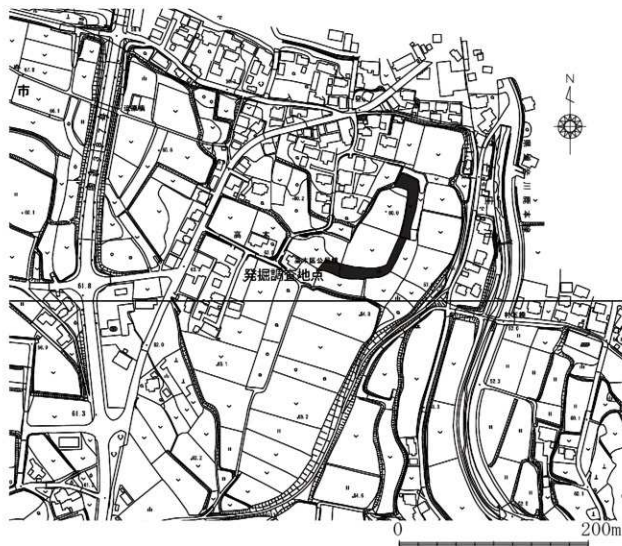
### 第2節 遺跡の層位

本遺跡の基本層序は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：灰褐色粘質土、Ⅲ層：褐色粘質土（古代包含層）、Ⅳ層：褐色粘質土（弥生時代包含層）、Ⅴ層：黒褐色粘質土（クロニガに相当）、Ⅵ層：黄褐色粘質土（ニガシロに相当）とした（第7図 第1調査区土層断面図）。Ⅱ層は、旧耕作土（西部実業学校実習地？）と考えられる。全調査区においてⅤ層のクロニガは、あまり発達しない。

土層断面の観察を行った結果、各調査区の遺構検出面は、第1調査区でⅣ層上面、第2調査区でⅢ層上面、Ⅳ層上面、Ⅵ層上面、第3調査区でⅢ層中～下位、Ⅴ層上面である。実際の遺構検出は、第1調査区がⅤ層上面、第2調査区がⅥ層上面、第3調査区がⅣ層上面で行った。



第2図 合志郡衙推定地

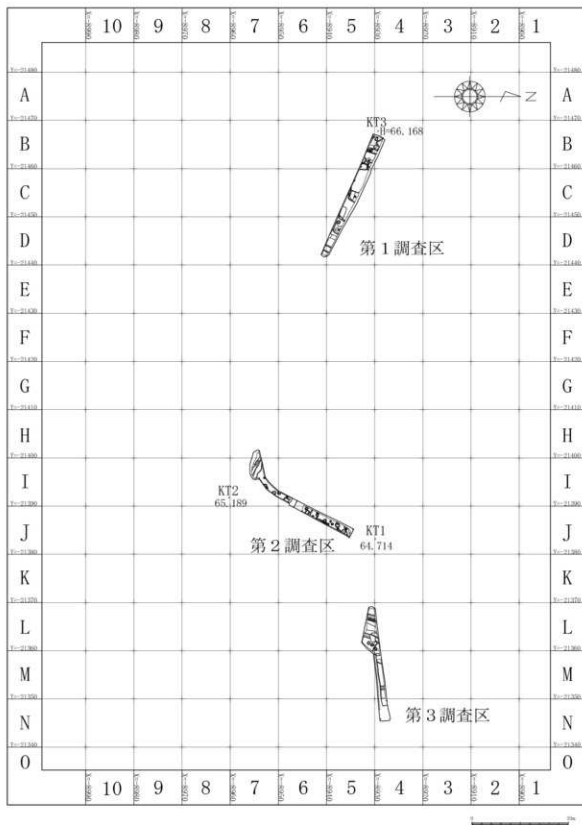


第3図 遺跡周辺地形図 (S=1/4000)





第4図 調査区全体図 (S=1/800)



第5図 グリッド設定図 (S=1/800)

### 第3節 遺構

#### SI1 (第8図)

第1調査区南西側のC5・D5グリッドに位置する竪穴建物跡である。規模は、東西3.36m×南北1.52×深さ0.32mを測る。床面は硬化面が残存しており、柱穴と考えられるP1と土坑S1を検出した。P1は、径0.26～0.42m、深さ0.18mであり、S1は径0.63m、深さ0.33mを測る。S1から多くの遺物が出土した。

埋土より弥生時代後期の土器が多く出土し、特に床面直上より5cm上位において南北の帯状に集中する箇所を確認した。

#### SD1 (第9図)

第1調査区東端のD5・D6グリッドに位置する溝状遺構である。規模は、幅1.48m、深さ0.32mを測る。断面形状は、東側に比べ西側がやや緩やかである。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。

#### SI2 (第10図)

第1調査区中央のC5グリッドに位置する竪穴建物跡である。規模は、東西2.00m×南北1.80m、深さ0.36mを測る。床面の南側に硬化面が認められ、北側に柱穴と考えられるP1がある。P1の規模は、径0.36m、深さ0.12mを測る。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。SI2は、北西側の風倒木痕に先行する。

#### SI5 (第11図)

第1調査区西側のC5・B5グリッドに位置する竪穴建物跡である。規模は、南北1.52m×東西1.32m、深さ0.31mを測る。床面の全体に硬化面が認められたが柱穴と考えられる遺構は確認できなかった。出土遺物は、床面直上より弥生時代後期の土器が出土し、やや浮いた状態で磨製石斧と鉄斧が確認された。SI5は、東側の風倒木痕に先行する。

#### SK1 (第11図)

第1調査区西側のB5グリッドに位置する土坑である。規模は、東西1.28m×南北0.42m、深さ0.45mを測る。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。SK1はSI3に後出する。

#### SK2 (第11図)

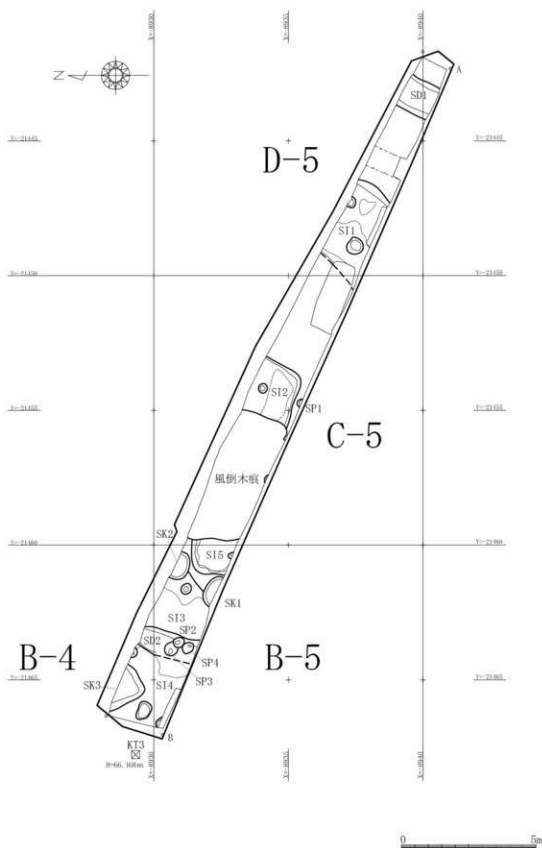
第1調査区西側のB5グリッドに位置する土坑である。規模は、東西1.08m×南北0.52m、深さ0.24mを測る。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。SK2は、SI3に後出する。

#### SI3 (第12図)

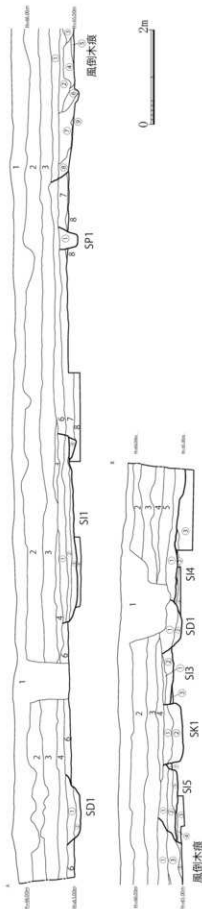
第1調査区西側のB4・B5グリッドに位置する竪穴建物跡である。規模は、東西2.1m×南北2.0m、深さ0.25mを測る。床面の西側に硬化面が残存し、東端に柱穴と考えられるP1がある。P1の規模は、径0.4m、深さ0.27mを測る。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。SI3は、SK1・2、SD2に先行する。

#### SI4 (第12図)

第1調査区西側のB4・B5グリッドに位置する竪穴建物跡である。規模は、東西2.6m×南北2.2m、深さ0.25mを測る。床面の東側に硬化面が残存し、西側に土坑S1、柱穴と考えられるP1がある。また、北東側に柱穴と考えられるP2がある。S1の規模は、東西0.71m×南北0.47m、深さ0.13mを測る。P1は、径0.59m、深さ0.37m



第6図 第1調査区平面図(S=1/150)

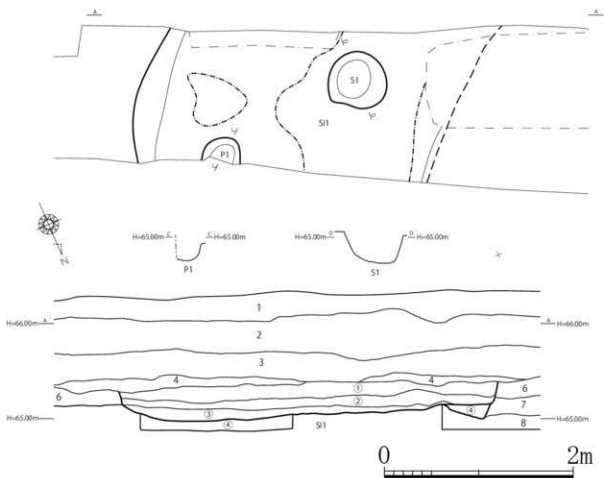


第7図 第1調査区土層断面図

1. 黄土: 2.50m以上、100%の黄砂質土。黄土中で散在。磁石反応は弱く、土質は中硬質で塊状は出ない。  
 2. 砂質粘土質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 3. 黄土質砂質土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 4. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 5. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 6. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 7. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 8. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。

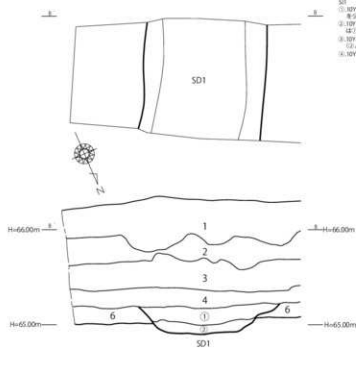
風作水痕  
 1. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 2. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 3. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 4. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 5. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 6. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 7. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。  
 8. 砂質黄土: 磁石反応は弱く、土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。土質は中硬質。

- 中硬質土層
- 1層 黄土
- 2層 黄土
- 3層 黄土
- 4層 黄土
- 5層 黄土
- 6層 黄土
- 7層 黄土
- 8層 黄土



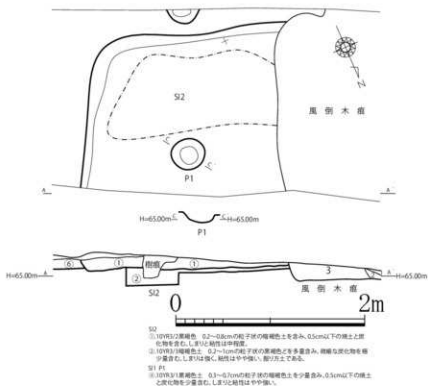
- S1
- ① 10YR5/3 黒褐色土、0.2 ~ 1cm の粒子状の黒褐色土（アロウコシ）を含まぬ、0.2 ~ 0.7cm の黒褐色ローム層を少量含む。厚さ 0.2 ~ 0.5cm の粘土土質の層を少量含む。しまりは弱くは中程度。
  - ② 10YR5/3 黒褐色土、0.3 ~ 1cm の粒子状の黒褐色土（アロウコシ）を少量含む。0.2 ~ 0.5cm の粘土土質の層は多少含まれる。しまり中程度、粘性は中程度。
  - ③ 10YR5/3 黒褐色土、0.3 ~ 1.5cm の粒子状の黒褐色土を少量含む。0.2 ~ 0.5cm の粘土土質の層を少量含む。以上と同程度。しまりと粘性は中程度。① ~ ③層が床面上の埋土である。
  - ④ 10YR5/3 黒褐色土、0.2 ~ 1.5cm の黒褐色ロームを多少含む。しまりは中程度、粘性は中程度。

第8図 S1 遺構実測図

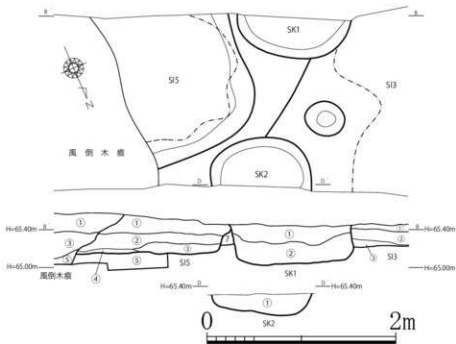


- 第1調査区 SD1
- ① 10YR2/1 黒色土、混入物は少なく、明確な粘土土質の層を含む。しまりは強く粘性は中程度。
  - ② 7.5YR3/1 黒褐色土、0.5 ~ 1cm の粒子状の黒褐色土を少量含む。しまりは中程度で粘性は中程度。

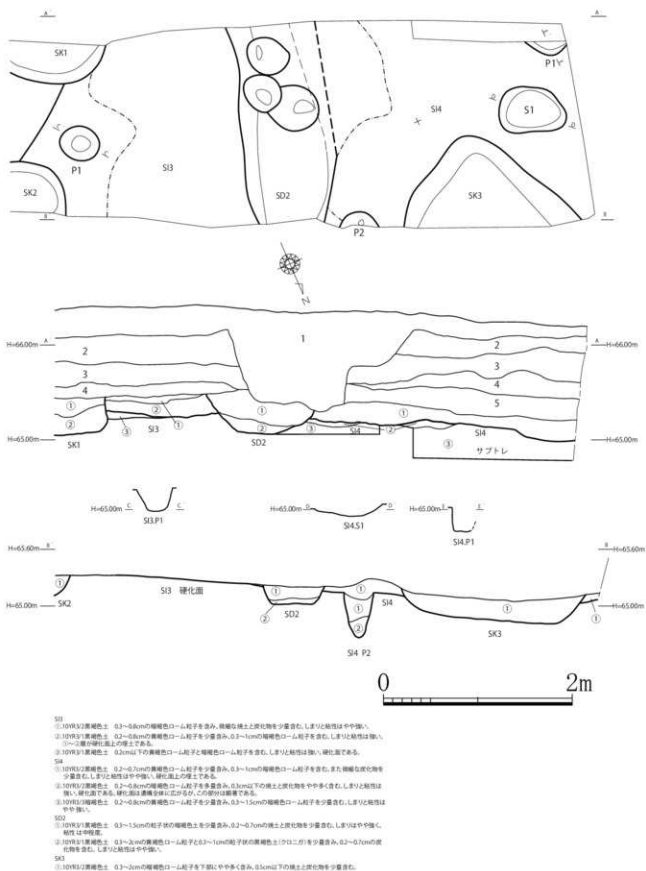
第9図 SD1 遺構実測図



第10図 S12 遺構実測図



第11図 S15、SK1・2 遺構実測図



第 12 図 SI3・4、SD2、SK3 遺構実測図



を測る。P2は、径0.44 m、深さ0.51 mを測る。埋土から弥生時代後期の土器と須恵器が出土した。SI4は、SK3、SD2に先行する。

#### SD2 (第12図)

第1調査区西側D5・D6グリッドで検出された溝状遺構である。規模は、幅0.98 m、深さ0.43 mを測る。断面の形状は、東側がやや傾斜がある。埋土から弥生時代後期の土器と須恵器・備前焼・瓦質土器の小片が出土した。SD2は、SI3・4に先行する。

#### SK3 (第12図)

第1調査区北西端B4グリッドで検出された土坑である。規模は東西1.96 m×南北0.98 m、深さ0.31 mを測る。埋土から弥生時代後期の土器と須恵器が出土した。SK3はSI4に先行する。

#### SK10 (第16図)

第2調査区北東側J5グリッドで検出された土坑である。規模は径0.57 m、深さ0.25 mを測る。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。SK10は、SK11に先行し、SP24に後出する。

#### SK11 (第16図)

第2調査区北東端J5グリッドで検出された土坑である。規模は東西の長さ1.24 m、南北の長さ0.88 m、深さ0.28 mを測る。埋土から弥生土器、土師器と鉄製鎧が出土した。跡は混入と考えられる。SK11は、SK10に後出する。

#### SK8 (第16図)

第2調査区北東側J5グリッドで検出された土坑である。規模は径0.74 m、深さ0.30 mを測る。埋土から弥生時代後期の土器と土師器が出土した。

#### SK9 (第16図)

第2調査区北東側J5グリッドで検出された土坑である。規模は径0.78 m、深さ0.57 mを測る。埋土から弥生時代後期の土器と土師器が出土した。

#### SD4 (第17図)

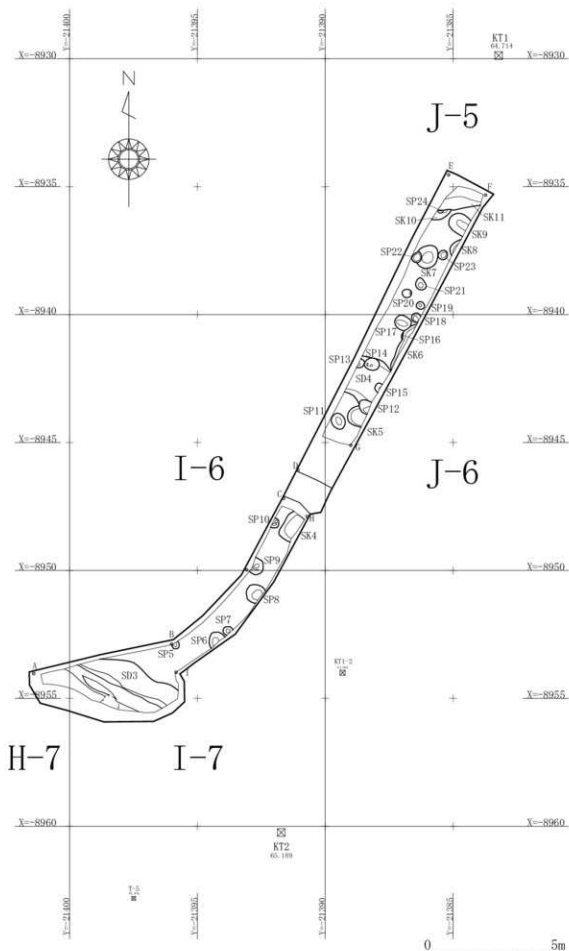
第2調査区中央J6グリッドで検出された溝状遺構である。北西～南東方向に伸び、規模は最大幅2.19 m、深さ0.67 mを測る。埋土から弥生時代後期の土器と須恵器、土師器が出土した。SD4は、SK6、SP12に先行し、SP15に後出する。調査区外の南東方向には高木区公民館敷地の段差がみられ、その延長には幅10 m程の堀状を呈する畑が巡る(第3図 遺跡周辺地形図)。

#### SK5 (第17図)

第2調査区中央J6グリッドで検出された土坑である。規模は径0.82 m、深さ0.45 mを測る。埋土から須恵器が出土した。SK5は、SP12に先行する。

#### SK6 (第17図)

第2調査区北東側J6グリッドで検出された土坑である。調査区外に伸び、一部のみの検出した規模は長さ2.26 m、幅0.2 m、深さ0.63 mを測る。埋土から弥生時代後期の土器と土師器、鉄滓が出土した。SK6は、SD4より後出する。

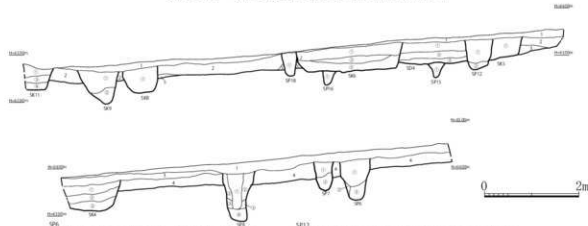


第 13 图 第 2 調査区平面图 (S=1/150)



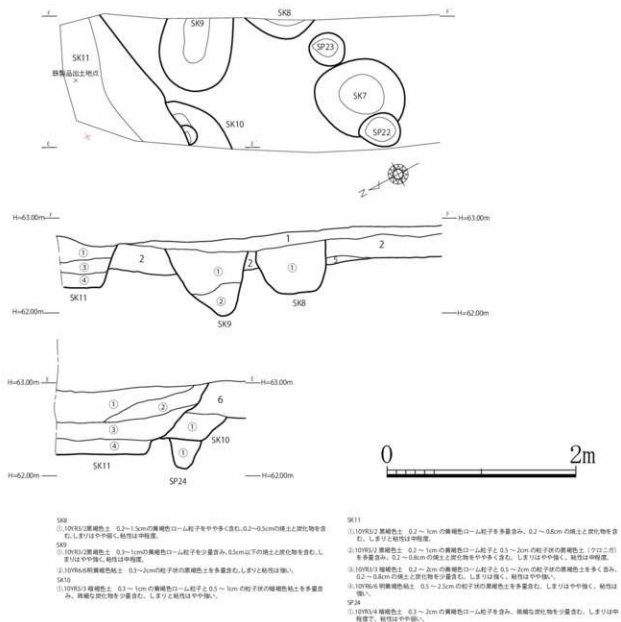
1. 黄土
2. 50%以上腐植土 0.5~1.0cmの腐植色ローム粒子を多量含む。炭化物を含む。しまりは強く、硬質である。
  - 2.50%以上腐植土 SP5の腐植土は中程度、0.5~1.0cm程度の腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは強く、しまりは強い。
  4. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を多量含む。ローム粒子の腐植土は少量含む。また腐土と炭化物を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
  5. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を多量含む。0.2~2.0cmの腐植土は少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
  6. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を多量含む。0.2~2.0cmの腐植土は少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
  7. 7.50%以上腐植土 0.2~1.0cmの腐植色ローム粒子を少量含む。0.5~2.0cmのブロック状の腐植土を少量含む。また腐植土と炭化物を少量含む。しまりは強く、粘性は強い。
  8. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を多量含む。下部に行くと腐植土は中程度で、しまりは中程度で、粘性は中程度。
  9. 10%以上腐植土 0.2~1.0cmの腐植色ローム粒子を少量含む。下部に行くと腐植土は中程度で、しまりは中程度で、粘性は中程度。
  10. 7.50%以上腐植土 0.2~1.0cmの腐植色ローム粒子を少量含む。下部に行くと腐植土は中程度で、しまりは中程度で、粘性は中程度。
  11. 10%以上腐植土 0.2~1.0cmの腐植色ローム粒子を少量含む。下部に行くと腐植土は中程度で、しまりは中程度で、粘性は中程度。
1. 黄土 2. 腐植土 3. 4. 腐植土 5. 腐植土 6. 腐植土 7. 腐植土 8. 腐植土 9. 腐植土 10. 腐植土 11. 腐植土

第 14 図 第 2 調査区北西壁面土層断面図



1. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を中程度含む。0.2~1.0cmの腐植土と炭化物を少量含む。しまりは中程度。粘性は中程度。
2. 10%以上腐植土 0.2~2.0cmの腐植色ローム粒子を少量含む。腐植土と炭化物を少量含む。しまりは中程度。粘性は中程度。
3. 10%以上腐植土 0.2~2.0cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
4. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
5. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
6. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
7. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
8. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
9. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
10. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
11. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
12. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
13. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
14. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
15. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
16. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
17. 10%以上腐植土 0.2~1.5cmの腐植色ローム粒子を少量含む。しまりは中程度で、粘性は中程度。
18. 1. 黄土 2. 腐植土 3. 腐植土 4. 腐植土 5. 腐植土 6. 腐植土 7. 腐植土 8. 腐植土 9. 腐植土 10. 腐植土 11. 腐植土 12. 腐植土 13. 腐植土 14. 腐植土 15. 腐植土 16. 腐植土 17. 腐植土 18. 腐植土

第 15 図 第 2 調査区南東壁面土層断面図



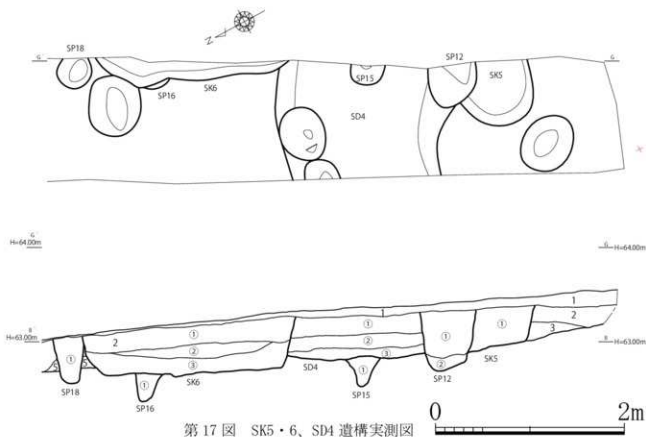
第16図 SK8～11 遺構実測図

#### SK4 (第18図)

第2調査区南西側16グリッドで検出された土坑である。平面形は、方形を呈し、規模は、長さ1.25m、幅0.74m、深さ0.63mを測る。断面は、壁面が直立に近い形状である。埋土から弥生土器、土師器、鉄製品の手鎌が出土した。

#### SD3 (第19図)

第2調査区南西側17・H7グリッドで検出された溝状遺構である。北西から南東方向に延び、幅1.98m、深さ1.47mを測る。断面は緩やかに傾斜し、底面に近い付近から急な壁面となっている。土層の堆積状況は、水平に近い堆積であり、中位より下位はローム粒を多く含む、あまりしまらないことから人為的に埋没したものと考えられる。埋土から弥生土器、須恵器、土師器が出土した。



SD4

- ①: 30W3/2 黄褐色土 0.1～1.5cmの黄褐色ローム粒子を多量含む。0.1～1cmの粒子径の黒褐色土（フロ二石）を少量含む。また0.2～0.8cmの塊土と炭化物を少量含む。しまりは弱く、粘性は中程度。  
 ②: 30W3/2 黒褐色土 0.1～1cmの黄褐色ローム粒子を中程度含む。0.2～0.5cmの塊土と炭化物を多量含む。しまりは中程度、粘性は中程度。  
 ③: 30W3/2 黒褐色土 0.2～2.5cmを多量含む。0.2～0.5cmの塊土と炭化物を多量含む。しまりは強く、粘性は中程度。

SK5

- ①: 30W3/2 黄褐色土 0.1～1cmの黄褐色ローム粒子を多く、0.2～0.8cmの塊土と炭化物を中程度含む。しまりと粘性は中程度。

SK6

- ①: 30W3/2 黄褐色土 0.2～0.8cmの黄褐色ローム粒子を多く、0.2～0.7cmの塊土と炭化物を中程度含む。しまりと粘性は中程度。

- ②: 30W3/2 黄褐色土 0.2～1cmの黄褐色ローム粒子と0.5～1cmの粒子径の黒褐色土（フロ二石）を中程度含む。0.2～1.5cmの塊土と炭化物を多く含む。しまりは強く、粘性は中程度。

- ③: 30W3/2 黒褐色土 0.2～3cmの黄褐色ローム粒子を多量含む。塊土と炭化物を少量含む。しまりは弱く、粘性は中程度。

SP12

- ①: 30W3/2 黒褐色土 0.2～1cmの黄褐色ローム粒子を中程度含む。0.2～0.7cmの塊土と炭化物を多く含む。しまりは中程度、粘性は中程度。

SP15

- ①: 30W3/2 黒褐色土 0.5～1cm黄褐色ローム粒子を多量含む。しまりは中程度で粘性は中程度。

SP18

- ①: 30W3/2 黄褐色土 0.1～1cmの黄褐色ローム粒子を多く、しまりは中程度、粘性は中程度。

SP18

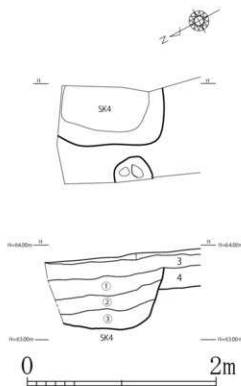
- ②: 30W3/2 黄褐色土 0.2～0.8cmの黄褐色ローム粒子を多く、0.2～0.7cmの塊土と炭化物を多く含む。しまりは中程度、粘性は中程度。

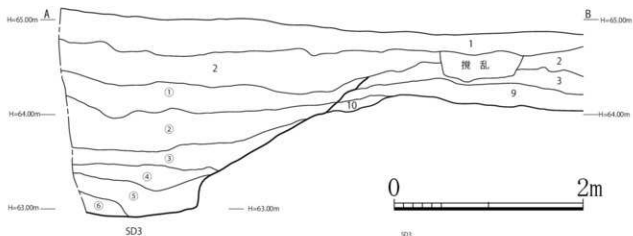
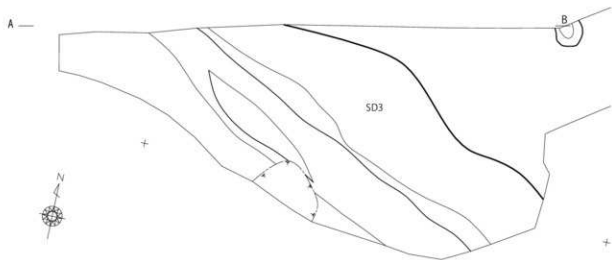
SK4

- ①: 30W3/2 黄褐色土 0.1～1cmの黄褐色ローム粒子と0.5～2cmの粒子径の黒褐色土（フロ二石）を多量含む。0.2～1cmの塊土と炭化物を多く含む。しまりと粘性は中程度。

- ②: 30W3/2 黄褐色土 0.1～1.5cmの黄褐色ローム粒子を多量含む。0.5～1cmの粒子径の黒褐色土（フロ二石）を少量含む。また0.3～1cmの塊土と炭化物を中程度含む。しまりは中程度、粘性は中程度。

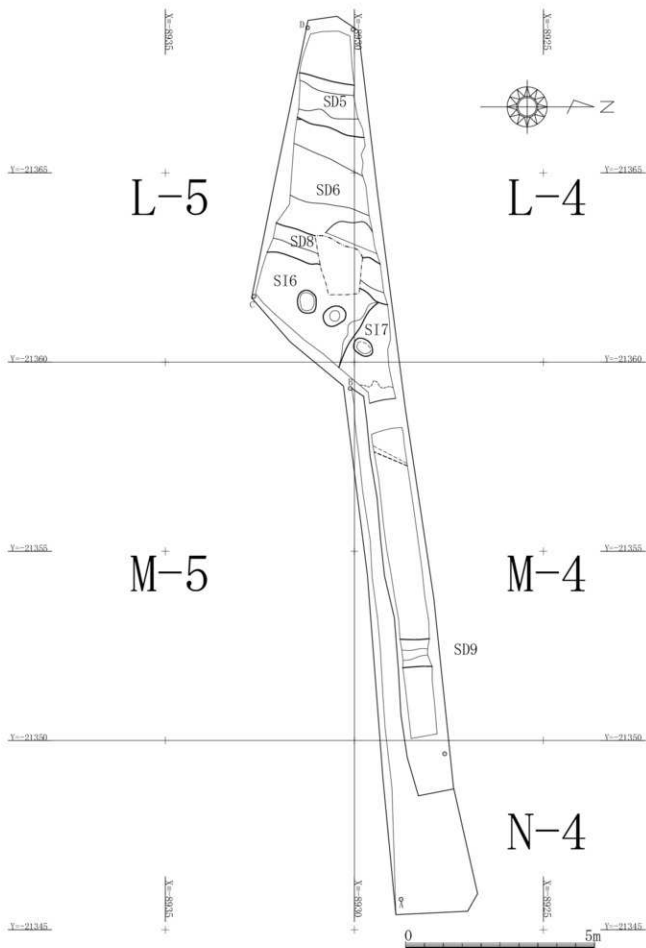
- ③: 30W3/1 黒褐色土 0.1～2cmの黄褐色ローム粒子を多量含む。0.5～2cmの粒子径の黒褐色土（フロ二石）を中程度含む。また0.5～2cmの塊土と炭化物を少量含む。しまりは弱く、粘性は中程度。





- SD3
- ①: 7.5%以上の黄褐色土、0.1~1cmの黄褐色ローム粒子を多量含む。2以上に  
しぼり土層は無い。
  - ②: ①と同色、0.1~1cmの黄褐色ローム粒子を多量含む。1.5~3cmの黄褐色ローム  
粒子を少量含む。しぼりと砂層は無い。
  - ③: ①より褐色ではあるが、やや暗い。0.1~1cmの黄褐色ローム粒子を大量含  
み。2~10cmの黄褐色ロームブロックを多量含む。しぼりは無い。結核は無い。
  - ④: ②と同色で暗味も無い。0.1~2cmの黄褐色ローム粒子を多量含む。砂らから、  
しぼりも無い。結核は不明瞭。
  - ⑤: 7.5%以上の黄褐色土と黄褐色ロームが混ざり合っている。砂らから、しぼりも無い。  
結核は無い。
  - ⑥: 7.5%以上の黄褐色土、0.1~2cmの黄褐色ローム粒子を最少量含む。しぼりは  
無い。砂らから、結核は無い。①~⑤の中で最も結核が多い。

第 19 図 SD3 遺構実測図



第 20 図 第 3 調査区平面図 (S=1/100)





#### SI6 (第22図)

第3調査区中央付近L4・L5グリッドで検出された竪穴建物跡である。規模は、南北の長さ3.00m×東西の長さ2.00m、深さ0.25mを測る。床面は、全面に硬化面が残存し、柱穴と考えられるP1・2の2基が確認された。P1の規模は、径0.62m、深さ0.24mでP2は、径0.60m、深さ0.11mを測る。SI6の南側に設定したトレンチでは、掘方が確認された。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。SI6は、SI7・9に後出し、SD8に後出する。

#### SI7 (第22図)

第3調査区中央付近L4・L5、M4・M5グリッドで検出された竪穴建物跡である。規模は、南北の長さ1.06m×東西の長さ2.12m、深さ0.25mを測る。東側の土層断面の確認により平面形は、一辺約3.8mの方形と推定される。床面は、全面に硬化面が残存し、S1は炉穴であり、炭化物や焼土が認められた。その規模は、径0.55m、深さ0.06mを測る。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。SI7は、SI6に先行する。

#### SI8 (第21図)

第3調査区東側トレンチM4グリッドの土層断面のみにおいて確認された竪穴建物跡である。土層断面でSI11、SD9と新旧関係が層位的に捉えられ、SI8はSI11に先行し、SD9に後出する。断面で確認された規模は、長さ3.36m、深さ0.33mを測る。下層は、硬化面と考えられる層がみられた。埋土から弥生時代後期の土器、須恵器、土師器が出土した。

#### SI9 (第22図)

第3調査区SI6南側トレンチL5グリッドの土層断面のみにおいて確認された竪穴建物跡である。土層断面でSI6に先行する。断面で確認された規模は、長さ1.80m、深さ0.42mを測る。埋土から弥生時代後期の土器が出土した。

#### SI10 (第22図)

第3調査区SI6南側トレンチM4グリッドの土層断面のみにおいて確認された竪穴建物跡である。断面で確認された規模は、長さ2.30m、深さ0.62mを測る。②層はカマドと考えられる層で墨書土器とみられる土師器が出土した。

#### SI11 (第21図)

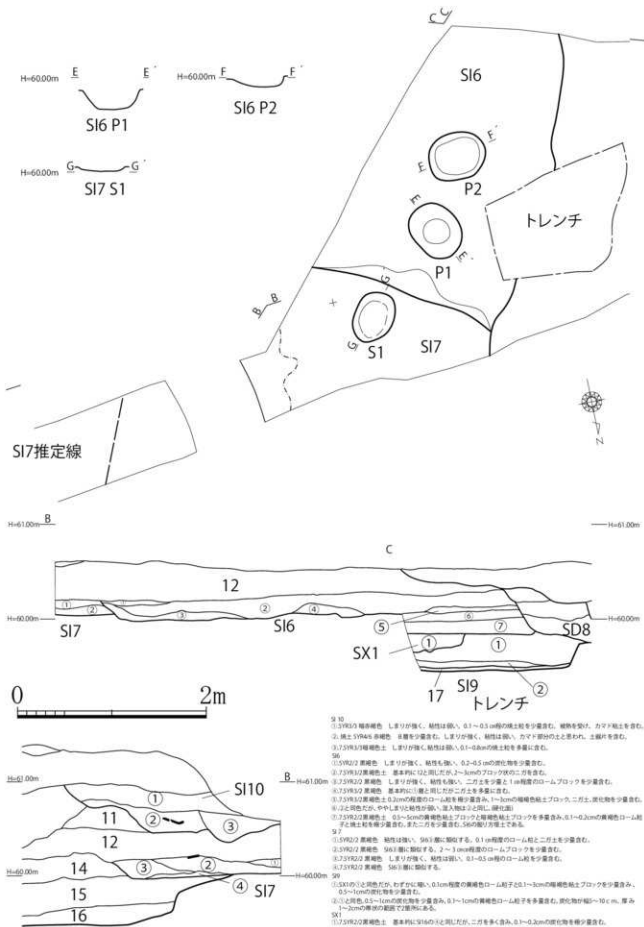
第3調査区SI6南側トレンチM4グリッドの土層断面のみにおいて確認された竪穴建物跡である。断面で確認された規模は、長さ4.60m、深さ0.50mを測る。③層はカマドと考えられる層で、⑤層は硬化面が認められた。

#### SD5 (第23図)

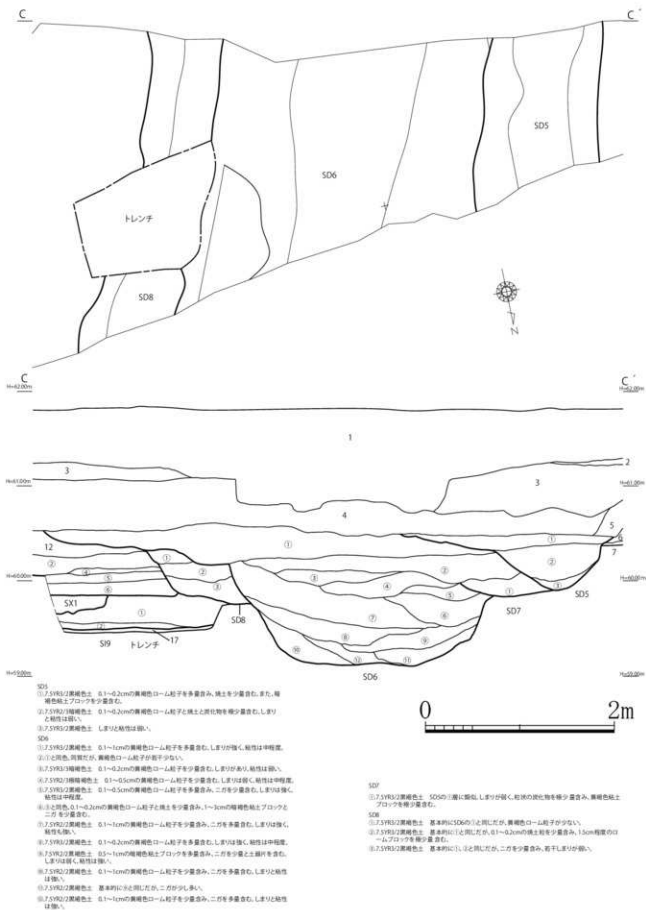
第3調査区の西端L4、L5で検出された南北方向に延びる溝状遺構である。規模は、幅1.20m、深さ0.59mを測る。断面形はU字状で上方が緩やかである。埋土から弥生時代後期の土器、須恵器、土師器が出土した。SD5は、SD6・7に後出する。

#### SD6 (第23・24図)

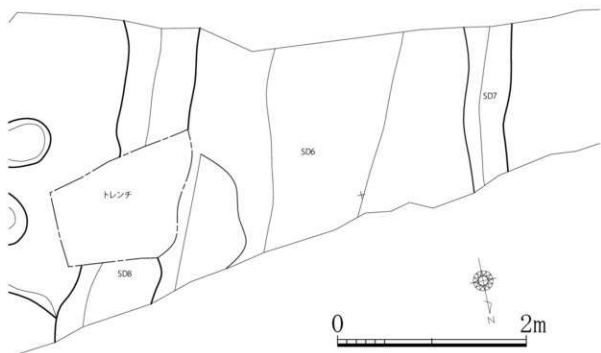
第3調査区の西端L4、L5で検出された南西から北東方向に延びる溝状遺構である。規模は、幅2.72m、深さ1.36mを測る。断面形はU字状で上方に段を持ち、緩やかな形状を呈する。段のある①層は、別遺構になる可能性もある。土層堆積状況は、東側からの堆積を示し、⑦層～⑫層は人為的に埋没した可能性が高い。SD6埋没途中でSD7が



第22図 SI6～10 遺構実測図



第23図 SD5～8 遺構実測図



第24図 SD6～8 遺構実測図

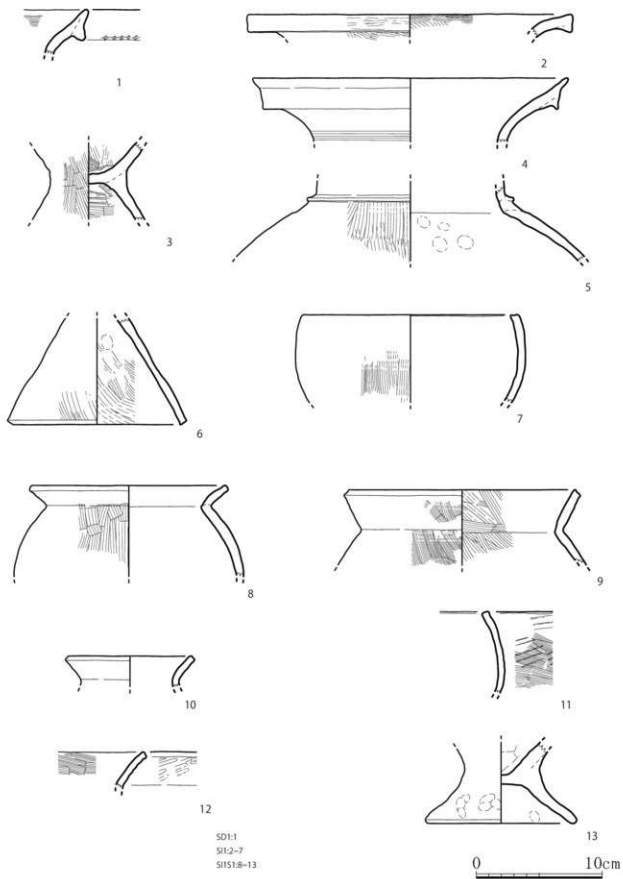
構築される。同様に、③層～⑥層の堆積状況もSD6を掘り直した可能性がある。埋土から弥生時代後期の土器、須恵器、土師器が出土した。SD6は、SD5に先行し、SD8に後出する。

SD7 (第23・24図)

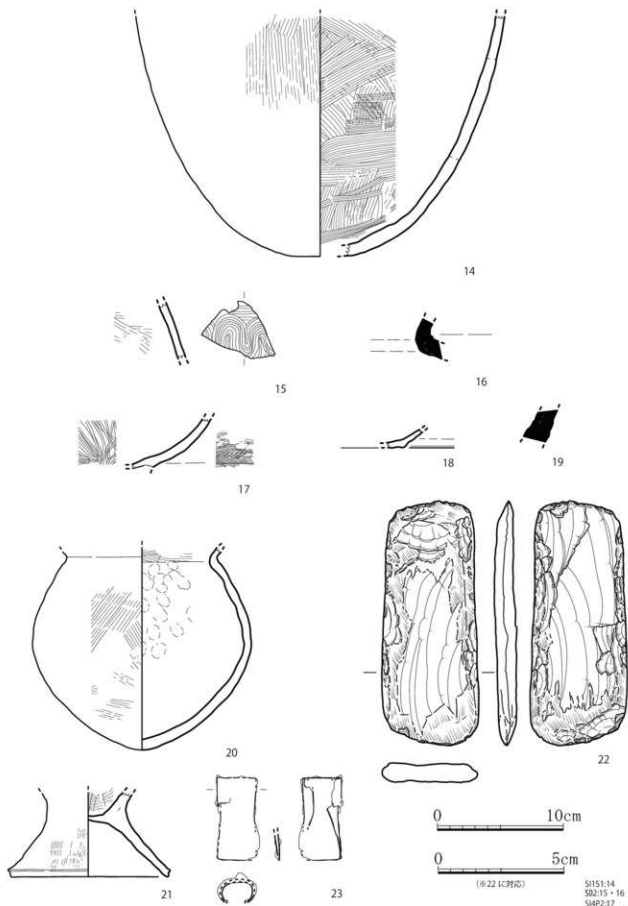
第3調査区西側のL4、L5グリッドで検出した南西から北東方向に延びる溝状遺構である。SD7は、SD6埋没途中に構築される。規模は、幅0.90m、深さ0.28mを測る。SD7は、SD5に先行する。

SD8 (第23・24図)

第3調査区西側のL4、L5グリッドで検出した南西から北東方向に延びる溝状遺構である。規模は、幅0.82m、深さ0.60mを測る。埋土から弥生時代後期の土器、須恵器、土師器が出土した。SD8はSD6に先行し、SD6・7に後出する。

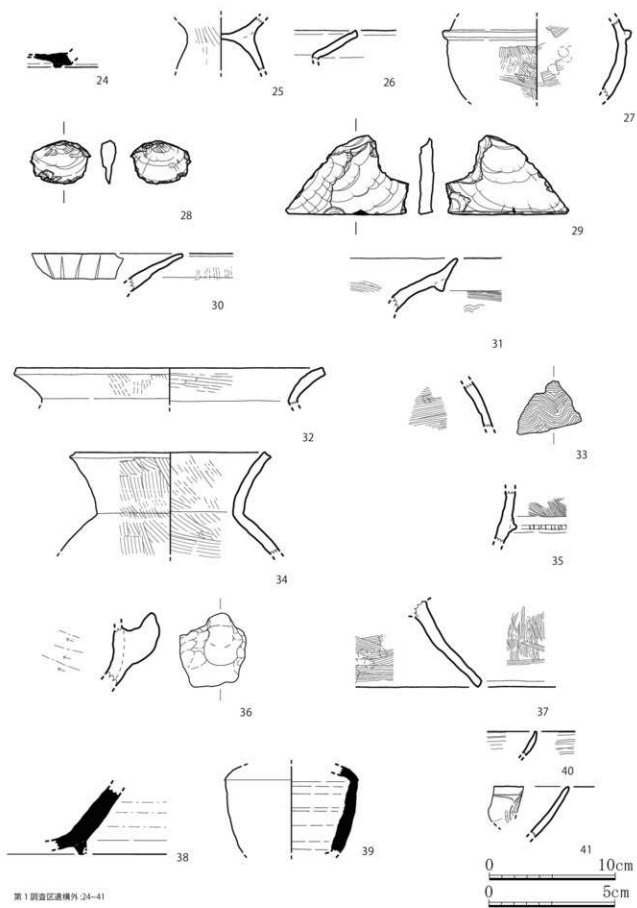


第25図 遺物実測図(1)



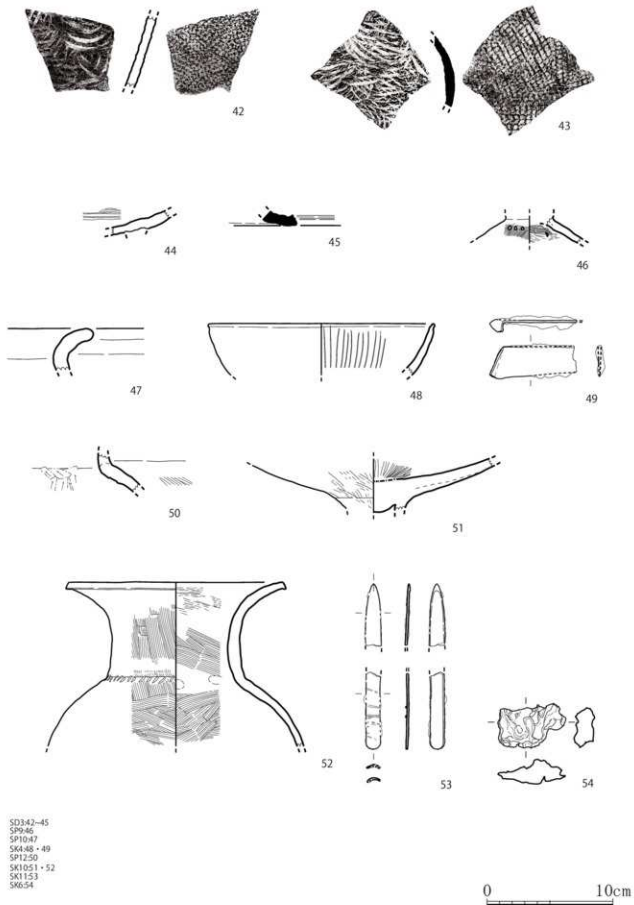
第26図 遺物実測図(2)

S151:14  
S82:15・16  
S4P2:17  
SK3:18・19  
S15:20-23



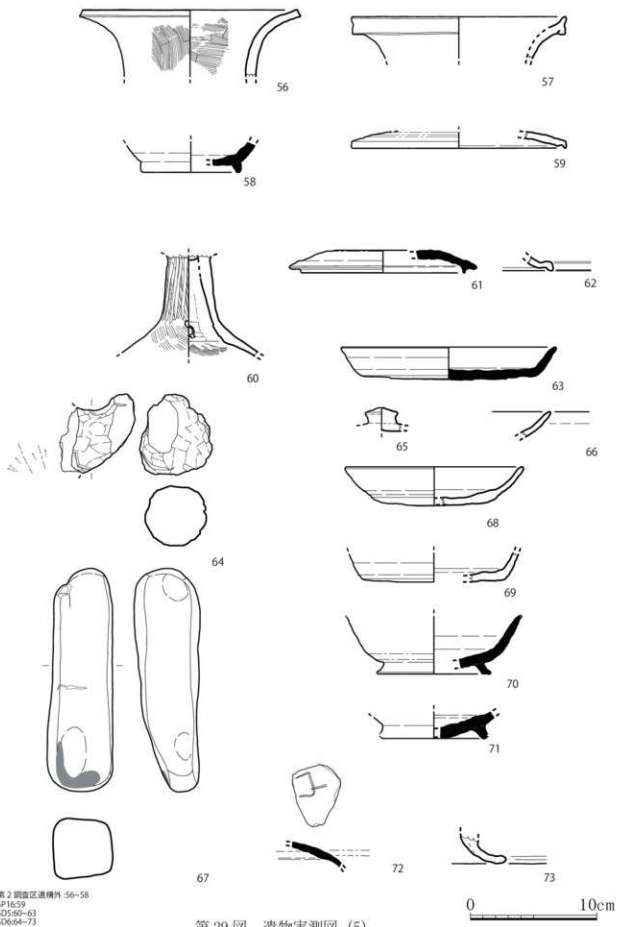
第1調査区遺構外・24-41

第27図 遺物実測図(3)

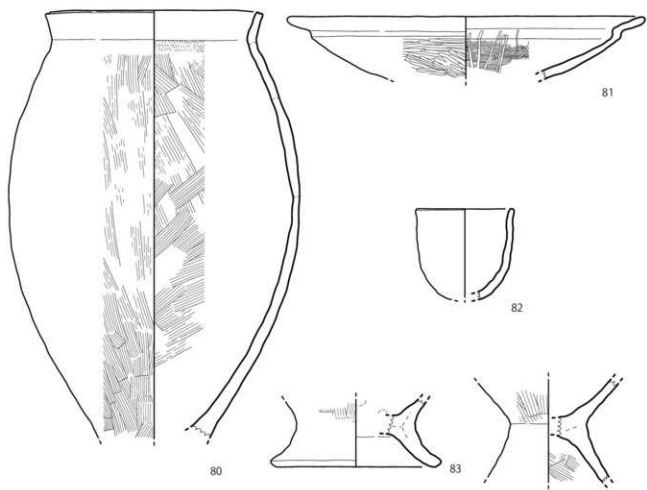
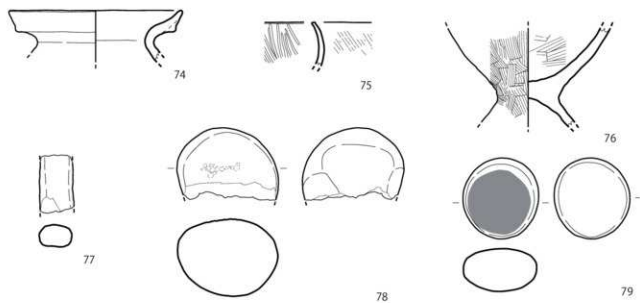


第28図 遺物実測図(4)





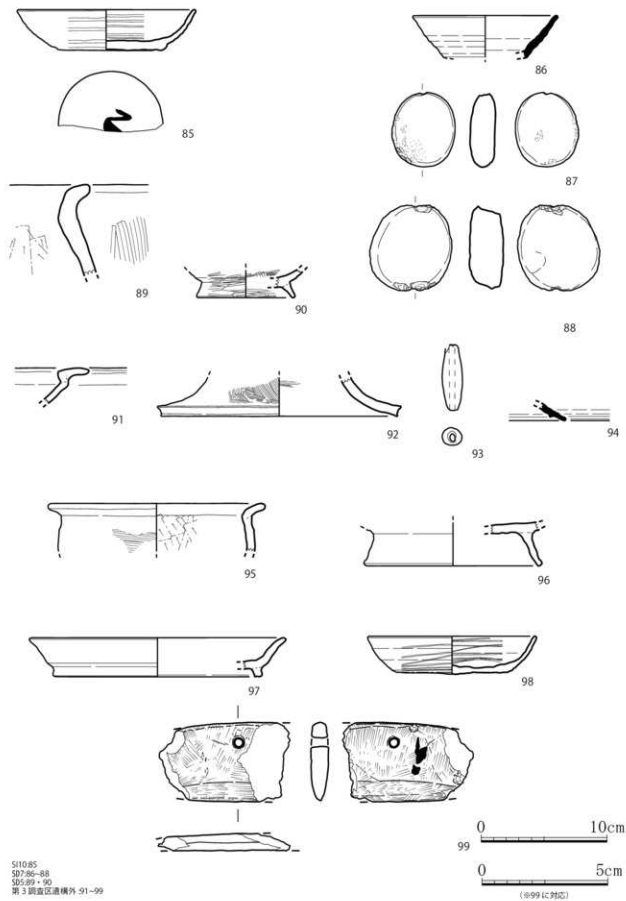
第29図 遺物実測図(5)



51674-79  
51780-84

第30図 遺物実測図(6)

0 10cm



S11085  
 SD7:86-88  
 SD5:89+90  
 第3調査区遺構外 91-99

第31図 遺物実測図(7)



路線 番号	営業 種別	営業 区間	駅上下地点		駅土 曜日	路線 系統	路線 名称	種別 所在地	区間(km)			色 票		乗車 回数	駅土	備考	
			乗降 回数	乗車 回数					乗車 回数	乗車・降車		乗車・降車					
										回数	回数		回数				
10	2K	9-12	5-19	上野線	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	5.1	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
11	2K	10-10	5-20	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	5.2	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
2	2K	10-10	5-20	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	07.0	—	13.0	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
3	2K	—	3-5	V線	常陸上野	常陸	常陸	常陸	07.0	—	5.3	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
17	2K	常陸上野	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	常陸	07.0	—	3.3	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	内線側	
18	2K	常陸上野	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	常陸	—	02.0	2.4	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
19	2K	10-10	5-21	上野線	常陸	常陸	常陸	常陸	01.0	—	1.3	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	両下り	
4	3K	10-5	5-1	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	6.9	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
61	3K	10-5	5-1	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	04.0	—	1.8	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
62	3K	10-5	5-1	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	3.1	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
5	3K	10-5	5-1	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	07.0	03.0	2.0	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	内線利用可能、利用線と区別	
64	3K	10-6	5-2	上野線	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	6.2	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
65	3K	10-6	5-2	上野線	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	5.9	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
66	3K	10-6	5-2	上野線	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	2.0	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
5	3K	10-6	5-2	上野線	常陸	常陸	常陸	常陸	04.0	04.0	3.8	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
69	3K	10-6	5-2	上野線	常陸	常陸	常陸	常陸	—	03.0	2.3	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
6	3K	10-6	5-2	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	01.0	—	0.9	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	内線利用可能	
71	3K	10-6	5-2	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	2.1	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
7	3K	10-6	5-2	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	3.9	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	常陸上野	
73	3K	10-6	5-2	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	2.4	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
74	3K	11-0	5-3	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	03.0	—	4.1	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
75	3K	11-0	5-3	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	3.3	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
76	3K	11-0	5-3	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	7.9	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
17	3K	11-0	5-3	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	4.0	両側 (1,338/4)	—	—	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
80	3K	11-1	5-4	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	03.0	—	33.9	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
81	3K	11-1	5-4	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	01.0	08.0	—	5.9	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	内線側
8	3K	11-1	5-4	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	01.0	—	7.2	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	内線側	
83	3K	11-1	5-4	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	03.0	5.4	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
84	3K	11-1	5-4	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	6.2	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
9	3K	11-10	5-7	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	04.0	8.2	3.3	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	常陸	
86	3K	10-7	5-5	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	07.0	04.0	5.4	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐		
99	3K	10-5	5-6	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	7.2	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
81	3K	10-5	5-6	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	02.0	2.2	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
91	3K	—	—	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	2.0	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
92	3K	—	—	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	0.4	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
11	3K	—	—	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	1.4	両側 (1,338/4)	—	—	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
94	3K	—	—	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	—	1.4	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	常陸	
95	3K	—	—	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	04.0	—	3.9	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐		
10	3K	—	—	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	—	03.0	3.3	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
97	—	—	—	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	01.0	06.0	3.1	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	
10	3K	—	—	常陸上野	常陸	常陸	常陸	常陸	07.0	03.0	3.0	両側 (1,338/4)	両側 (1,338/4)	両	両下り分岐、赤旗、常陸、赤旗分岐	赤旗	

第3表 遺物観察表(石器)

調査番号	実測番号	調査区	出土地点		出土層位	種類	器種	保存度	寸法				材質	備考	
			整理時	調査時					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	22	1区	S1-5	S-14		磨製石器	石片	尖形	9.7	3.9	0.9	56.86	緑色片岩		
	28	1区		C-5		磨製	打製石器	刮削	尖形	1.7	2.4	6.65	2.67	燧石	使用済みあり
	29	1区		C-5		磨製	打製石器	二次加工刮削	尖形	3.1	4.86	0.6	7.51	燧石	磨製石器の 主製品か?
13	67	3区	S9-6	S-2		燧石器	石片?	尖形	17.6	3.2	5.2	795.0	燧石		
	79	3区	S1-6	S-3		燧石器	磨石	尖形	6.5	6.0	3.5	155.0	燧石		
	76	3区	S7-6	S-3		燧石器	磨石	尖形	5.7*	8.0*	6.1	244.0*	燧石	断面不明	
14	87	3区	S9-7	S-5		燧石器	石片?	尖形	3.9	5.0	2.0	88.0	燧石		
15	60	3区	S9-7	S-5		燧石器	石片	尖形	6.8	6.5	2.7	128.0	燧石		
16	86	3区	確認調査			磨製石器	石片?	尖形	3.11*	3.2*	6.7*	15.31*	燧石		

\*数値の後に+が付くものは残存量

第4表 遺物観察表(鉄器)

調査番号	実測番号	調査区	出土地点		出土層位	種類	器種	保存度	寸法				備考
			整理時	調査時					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
18	23	1区	S1-5	S-14		鉄製品	鉄片	尖形	6.65	3.3	1.7	20.60*	
17	69	2区	S8-4	S-8		鉄製品	子鎌	尖形	2.75	7.01*	1.05	22.14*	
19	52	2区	S8-11	S-21		鉄製品	鋸	尖形	10.1*	1.38	6.25	9.77*	
24	2区	S8-6	S-23			鉄製品	鉄片		3.2	4.9	3.0	23.67	

\*数値の後に+が付くものは残存量

## 第IV章 まとめ

今回の発掘調査で確認できた遺構の時期は以下の通りである。

第1調査区 弥生時代後期 SI1・2・5 古代 SI4、SK2・3、SD1・2

第2調査区 弥生時代後期 SK10、SP24 古代 SK4～9・11、SD4、SP10～13・15・16・22 中世SD3

第3調査区 弥生時代後期 SI6～9、SX1、SD9、古代 SI10・11、SD5～8

第1・3調査区において弥生時代後期の竪穴建物跡7軒、古代の竪穴建物跡4軒の計11軒が確認できた。第2調査区は、緩斜面の旧地形であるが竪穴建物跡は存在しない空間となっており、弥生時代の遺構が少ない。第3調査区では、遺構の残存状況が良好で古代、弥生の竪穴建物跡が層位的に把握できた。

第2調査区のSD3の時期は、古代の遺構面より上位にあたる3層(Ⅲ層)上面に検出面があり、出土遺物より中世と考えられる。SD4の時期は、出土遺物、重複関係から古代である。SD4は東側の周辺に残存する堀状地割の延長上に位置する。SK4は、10～11世紀代の土師器桶と鉄製の手鎌が共存した。また、SK6からは鉄滓が出土している点も注意が必要である。SK11は、土師器と鉄製鉋が中位より出土しており、この鉄製鉋は弥生時代の可能性があり、混入物ではないかと思われる。

第3調査区のSI10は、墨書土器である土師器坏より8世紀後半に築造されたと考えられる。SD5～8は、同一箇所において南西から北東に延びる溝状遺構が確認された。最後に構築されるSD5出土の黒色土器B類桶より10世紀代に埋没したことが推測される。SD7は、9世紀代にSD6の埋没途中に造られ、SD6③～⑥層も同様に構築された可能性がある。SD6下層出土の須恵器は、8世紀代であることから埋没時期をその時期に求めることができよう。

第1調査区SD1・2、第2調査区SD4、第3調査区SD5～8は、平行・直行する主軸方向に関係があり、時期は8～10世紀代に築造された可能性がある。これらの溝状遺構は、木成堆積を示す痕跡がないことや防衛的な断面形状がみられないことから区画溝の可能性また、古代の推定車路に平行する点や基底面が平坦であることなどから道路の可能性を挙げておきたい。

今回の発掘調査では、合志郡衙を積極的に裏付ける痕跡を確認するには至らなかった。しかし、少量であるが転用硯の可能性のある須恵器、墨書土器や鏡書土器、多くの赤彩された土師器などが出土したことはその可能性を補強する材料となる成果となった。合志川と上庄川の合流地点、推定車路、過去に出土した帯金具、「群家(こうげ)」の地名そして千束遺跡との関係などを考え合わせれば、現時点において合志郡衙の最有力の候補といえよう。

最後に、合志郡衙の課題として合志郡が分立した貞観元年(859)と遺跡の時期や千束遺跡の性格がある。今回の調査地点南側に広がる最も高い標高である240m×180mの範囲に遺跡の本体が存在する可能性を挙げ、今後の調査に期待したい。





# 圖 版



図版 1



遠景写真（西方向）



遠景写真（東方向）

図版 2



遠景写真（北方向）



第1調査区完掘状況



第2 調査区完掘状況



第3 調査区完掘状況



第1調査区完掘状況（西より）



第1調査区完掘状況（東より）



S11 土層堆積状況（北より）



S13 完掘状況（南より）



S15 遺物出土状況（東より）



SD2 土層堆積状況（北より）





風倒木痕土層堆積状況（北より）



第2調査区北側完掘状況（南より）



SK10・11、SP24 土層堆積状況（東より）



SK10 遺物出土状況（東より）



SD4 土層堆積状況（東より）



SK4 完掘状況（西より）



SD3 完掘状況（東より）



SD3 土層堆積状況（東より）



SP8 土層堆積状況（西より）



第2調査区土層堆積状況（東より）



第3調査区完掘状況（西より）



SI6・7完掘状況（南より）





SI7 遺物出土状況（北より）



SI6・7 土層堆積状況（北西より）



SD8、SI6・9、SX1 土層堆積状況（北より）



SI10 土層堆積状況（北より）





SD5～8 完掘状況（北より）



SD5～8 南壁面土層堆積状況（北より）



S18・11 土層堆積状況（北より）



作業風景



出土遺物 (1)



11



12



13



14



15



16



17



18



19

出土遺物 (2)

## 報告書抄録

フリガナ	コウギバルイセキ							
書名	高木原遺跡							
副書名	高木線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業							
巻次								
シリーズ名	合志市文化財調査報告第4集							
編著者名	米村 大 奈須 和貴							
編集機関	合志市教育委員会							
所在地	合志市福原 2922 番地							
発行年月日	2019 年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収 遺跡名	所在地	市町村	遺跡 番号					
高木原遺跡	合志市 合生字 高木	407	36	32° 55' 09"	130° 46' 16"	2018 5.14 ～ 7.13	160 m <sup>2</sup>	高木線改良 工事
所収 遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
高木原遺跡	包蔵地	弥生 古代	竪穴建物跡 土坑 溝	弥生土器 須恵器 土師器 鉄製品				

合志市文化財調査報告 第4集

## 高木原遺跡

高木線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

発行年月日 2019年3月31日

編集・発行 合志市教育委員会  
〒861-1116 合志市福原2922

印刷・製本 株式会社 ダイケン  
〒861-1102 合志市須屋2190-1









